

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601234		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア元八事(ユニットA)		
所在地	愛知県名古屋市中区元八事3-292		
自己評価作成日	平成27年2月9日	評価結果市町村受理日	平成27年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成27年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当社の理念である「心む穏やかな暮らし」を目指して感謝と思いやりの心で安心を提供しています。他部署と互いに協力しあう事で仕事の進め方を参考にしながら視野をひろげていき安心・安全な生活ができる様に、情報を共有し身体機能維持・向上、また、利用者様の満足感につながるようなケアサービスを心がけています。毎日が元気に楽しく笑いの絶えない施設づくりを目指しています。レクリエーションにも積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1年のホーム目標を「安心は時間と心のゆとりから、感謝」とし、職員は利用者の主体性と思いを大切にした支援に取り組んでいる。利用者の介護計画に立てられた目標を、職員が把握しやすい記録表になっており、ホームでの安心した生活とそれが望む生活の両方が提供出来るように努めている。家族とは利用者の高齢化・重度化が進む中で、その都度話し合いをしながら支援方針を決め、最後まで利用者がホームで暮らせるように医療と連携を図り看取りの体制も整えている。また昨年の秋祭りには地域にパンフレットを配布し、近隣の人が多数足を運んでくれた。祭りと合わせてホームの内覧も行い、日頃の様子を知ってもらうことが出来た。今後もより地域の根ざしたホームを目指し、地域交流の場を増やして行きたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や支援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、方針は「昔と変わらず和みのある暮らし」をしていただけるよう提供している。理念も周知されるようにミーティングを通して確認し実践につなげている。	運営理念は月1回のミーティングで確認している。またホームの年間目標として「安心は時間と心のゆとりから、感謝」を掲げ、利用者が主体となった支援の実施に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。地域の行事に参加、施設行事への参加、近隣方々やボランティアに支援していただくなど交流をしている。	定期的に手品や落語、腹話術のボランティアや以前利用者だった家族の、ハンドマッサージの施術があり、利用者には大変人気があり毎回楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを通じ近隣の方々に理解をいただき外出や散歩で挨拶を交わすなど触れ合うことで理解や支援方法を活かせるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。いきいき支援センターの方の参加協力を頂き運営状況、施設の取組等報告している。家族の意見も盛り込みサービス向上につなげている。	いきいき支援センターの職員、家族の参加を得て、2ヶ月に1回実施している。ホームの現状報告や行事の実施内容などを伝えている。現在、自治会や民生委員などの地域住民の参加は得られていない。	今後は民生委員や地域代表として、自治会から代表で出席して貰えるような働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所など尋ねた折には、相談助言をいただく機会をもつように心がけている。運営者が積極的に連絡をするなど往来する機会をつくっている。市町村の研修、講習会も参加している。	職員は市や区が主催する研修に、順番に参加するようにしており、一人一人のスキルアップに繋げるよう努めている。またいきいき支援センターには、空き状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、マニュアルをもとに職員と意見をもちより、しないケアで取り組んでいる。ご家族とも相談の上、同意書を交わし施行。また3ヶ月ごと評価、検討をおこなっている。	ホームで定期的に勉強会を設けており、その中で身体拘束についても学んでいる。実際に拘束とは具体的に何にあたるのかを、介護技術の演習を行い職員間で認識を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに職員間意見交換や勉強会を開催。見過ごすことのないように声を掛け合い意識付をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の勉強会や民間の勉強会に参加し学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は施設長が統括的におこない施設パンフレット及び、重要事項説明書に添って内容を読みあげ、疑問点等に答えたりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの意見は随時施設長に報告、記録しミーティングを行ったり、運営推進会議を活用し運営に反映させている。	家族とは面会時に、利用者の日頃の状況を伝えると共に要望を聞き、職員間で情報を共有しながら出来る限り思いが実践できるように努めている。また利用者からは日々の関わり合いの中から、ホームでの希望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議を2ヶ月に1回開催し各施設報告をし共有の問題点や課題にとりくんでいる。月に1回 ミーティングを行い個人的にも意見交換をし反映させている。常に意見を聞き反映できるよう努力している。	週に1回のカンファレンスと月に1回のミーティングで業務体制や勤務体制などを職員間で話し合っている。また管理者とも定期的に個別で話す時間を設け、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容など職場環境、条件の整備に関して配慮が希薄。時間外労働もあるが給与へ反映させている。また代表者は職員の状況を把握しようとつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として年4回の研修、定期的な技術研修の実施。施設内での新人教育に対する取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内ではあるが、それぞれの施設にて交流はしている。同業者との交流は施設長が主となりネットワークづくりに賛同している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望には耳をかたむけたり、本人の行動から探したりと安心した生活が保てるようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いかなる時も日常的に耳を傾けられるようこちらからも問いかけたり話しやすい状況づくりに努めている。ケアプランの中に要望を取りいれている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況にあわせ、必要に応じて職員間話し合い支援の見直しや対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時と場所を共有することで、できる限り本人の意思を尊重しつつ援助をしている。一緒にできることへの喜びを共有し共に学びあいながら支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とコンタクトをはかり会話をもって情報の共有をしともに考え解決したり伝達できるよう支援し本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる範囲での支援はしている。馴染みの場、人との関係継続は難しいが、思い出話、好きだった場所などを傾聴することを心掛け支援している。	家族と一緒に昔交流が深かった友人に会いに行ったり、お墓参りやお正月に帰省をしたりしている。また馴染みの喫茶店や美容院へ定期的に通っている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士孤立しないよう職員は配慮に努めている。レクや会話を一緒に楽しんでいただけよう各テーブルに職員を配置したりトラブル回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙のやりとりなど一部であるがつきあいの継続をしている。いつなごきにおいても相談援助できるようにオープンにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き取り家族と相談しながら尊重するようにつとめているが、困難な場合は本人本位に検討している。	日常の会話で本人の希望や思い、意向を聞き取り、気持ちを受け止め、事業所の思いも伝え、出来る限り現状を維持できるよう、手を出し過ぎない支援に努めている。意思疎通が難しい場合は声掛けした時の表情や行動から気持ちを読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく馴染みの生活環境作りができるように、使い慣れた家具なども持ち込み対応している。アセスメントなどからも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な会話のなかで聞き取りや行動などから理解に努め、作業療法士から情報をもらうなどしたり、日常のケアの中からも職員間で情報共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを開催し現状に即した介護計画書を作成している。。本人家族のニーズをもとに短期、長期目標をたて状況に応じ随時見直しをしている。	職員は担当制をとり、週1回カンファレンスを開催し情報交換している。面会時に聞き取った家族の意見は支援経過表に記入し介護計画に反映している。職員は計画のサービス内容を共有して日々支援しており、3か月毎にモニタリングし、通常6か月で更新している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を利用しながら実施しているが情報が伝わりきれていないこともある。職員間ひきついでいけるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族との会話をもとに重視すべき点を見極め取り組めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にはボランティア、生き生き支援センターの方を含め、地域の相談は民生委員。防災訓練時、緊急時には消防局、エスケープ時には警察にと機関の協力のもと暮らしを支えている地域資源を把握し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅総合管理をもとに週1回の往診、随時電話対応、受診対応している。他HPとの協力も得ながら医療がうけられるように支援している。歯科に関しても口腔衛生、治療も随時対応している。本人、家族の希望に添いながら対応している。	協力医は24時間対応で、利用者は月2回の往診や希望に応じ医療機関のリハビリや訪問マッサージを利用でき、週1回訪問歯科の口腔ケア診療がある。また、週1回訪問看護もあり、手厚い医療サービス内容が職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護週1回と随時看護師へ連絡・相談・報告を行っている。状況においてすぐにかかけつけている。指示があればスタッフ間で共有しケアに組み取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人なので提携機関もあり瞬時に対応できる。文書(看護サマリー)にて情報交換を行い入院後もHPと連絡を密にとり退院に向けての対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護師が家族との面談を行うよう設定しその後の方針について情報を共有しスタッフで取り組んでいる。	入所時に看取りに関する説明を行い、状況変化に応じて家族とケア関係者が意向を確認しながら「看取りケア」の同意書を交わしている。年1回研修を行い、職員間で情報を共有し、医療関係者と連携を図りながらチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの作成、対応策ができています。勉強会をし実施訓練もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い対策に備えている。常備食や飲料水の確保もしている。残り湯を溜め災害に備えている。	4月には利用者参加の訓練とともに、消防署の立会いで消火のデモンストレーションを実施し、9月は初の不意打ち訓練で、2階の利用者を待機場所の非常階段前や倉庫まで避難誘導をした。倉庫に3日分の水や乾パン、衛生用品等が備蓄されている。	訓練を実施するにあたり、是非近隣の人にも声掛けを行い、実態の認識や協力体制が得られるよう取り組まれることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活を把握し利用者に添った声かけをしている。目上の方に対し節度や敬意をはらうよう心がけている。	職員は利用者の人格を尊重し、苗字か下の名前かを希望に応じて「～さん」づけしたり、丁寧語や、雰囲気合った言葉使いで対応している。職員間同士のコミュニケーションは声のトーンや場所を配慮し、プライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や全身の反応をキャッチするとともに話しやすい環境をつくり、思いを話していただき自己決定の支援をしている。選択肢をだして決めていただくこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や業務に追われ希望に添った過ごし方ができているかは疑問です。が、本人のペースにあった声かけに心がけている。時として職員のペースで動いてしまうことがある。外出希望など調整し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と共に声かけしながら対応している。洋服を選んでいただいたり、整容、整髪にも心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみ食、食事会など開催することで一緒に考え作ることができるように支援している。。食の細かい方は嗜好に添った代替食などで対処。2ヶ月に1回外食を予定している。	法人の配食を利用し、適温での提供を心がけ、利用者は盛り付け等出来ることは手伝っている。手作りケーキでの誕生日会、月2回、好みや季節感を取り入れた「特別食」や家族参加の行事、外食、おやつ作り、出前を利用しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残し対応している。日々の身体状態に応じて量や形状、味付けなどかえることはしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人ができる事への準備や促しをしたり、最終確認をしている。週1回訪問歯科による口腔ケアをうけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録に残し対応している。トイレ誘導も2~3時間おき、定期的に促す事で習慣を活かしていけるように自立支援をおこなっている。	トイレでの排泄に向け、声掛けや誘導をチェック表を基に行なっている。日中は、出来る限りオムツを使わず、時間管理をすることでリズムを付けながら自立への支援を心がけ、夜間はポータブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ラジオ体操などで予防に努めている。また、整腸剤などの薬を服用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添って対応している。およそ1日おき。入浴剤を使用している。	ほぼ1日おきの午後の時間帯で入浴している。夕食前の入浴希望も柔軟に対応しており、全介助の場合は2人体制をとっている。ゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を用いたり、職員と会話をしながらゆったりとした時間を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調にあわせて休息時間をもうけ配慮している。居室で落ち着かなければリビングのソファで休んでいただくこともしている。巡回時にはエアコン管理もおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリストを作り職員が把握できるようにしている。飲み終えるまでの見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの参加を促し楽しめるように提案している。日課として毎日うたをうたっている、日常生活動作においては出来ることを見極め役割を持って頂き支援している。(買い物や調理手伝いなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いにそって支援している。外出先によっては車を使用したり、行楽、旅行などの季節行事にも取り組んでいる。家族も参加していただいている。	日常的に車いすの人も近隣への散歩を楽しんでいる。散歩コース内に神社も多く、八事神社への初詣では恒例となっている。法人が企画した春のいちご狩り、秋の浜名湖ツアーや、事業所が企画した家族も参加できる、なばなの里など利用者が希望する行事への参加を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には買い物に同行し楽しめるように支援している。自身で支払いができる方は見守り援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用は可。年賀状も準備し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物や置物を配置。写真の展示。リビングには季節感を取り入れた工作物を作成展示している。、トイレには芳香剤、リビングには花など設置。	リビングは広い窓から日差しが差し込んで明るく、台所は利用者を見守りできる対面式になっている。状態に応じテーブル配置を変更しながらゆっくりと寛げる空間となるよう工夫している。玄関には行事や日常の写真掲示し、利用者手作りの貼り絵や折り紙作品で飾られた花からは、季節の香りが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファなど配置替えをするなど考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物などをおき、心地よい空間づくりをしている。自己にてまかせたり、家族と相談援助もしている。テレビ、加湿器も設置している。	居室には、備え付けでエアコン、ベッド、クローゼットがあり、生活歴を感じる家具やタンス等が持ち込まれている。ベッドの配置も各々が過ごしやすいように工夫している。家族やホームでの写真や塗り絵を掲示している人もあり、個性が感じられる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの環境に配慮した設備(手すり、スロープなど)や道具(標識、表札)など安全な生活が送れるよう工夫している。		